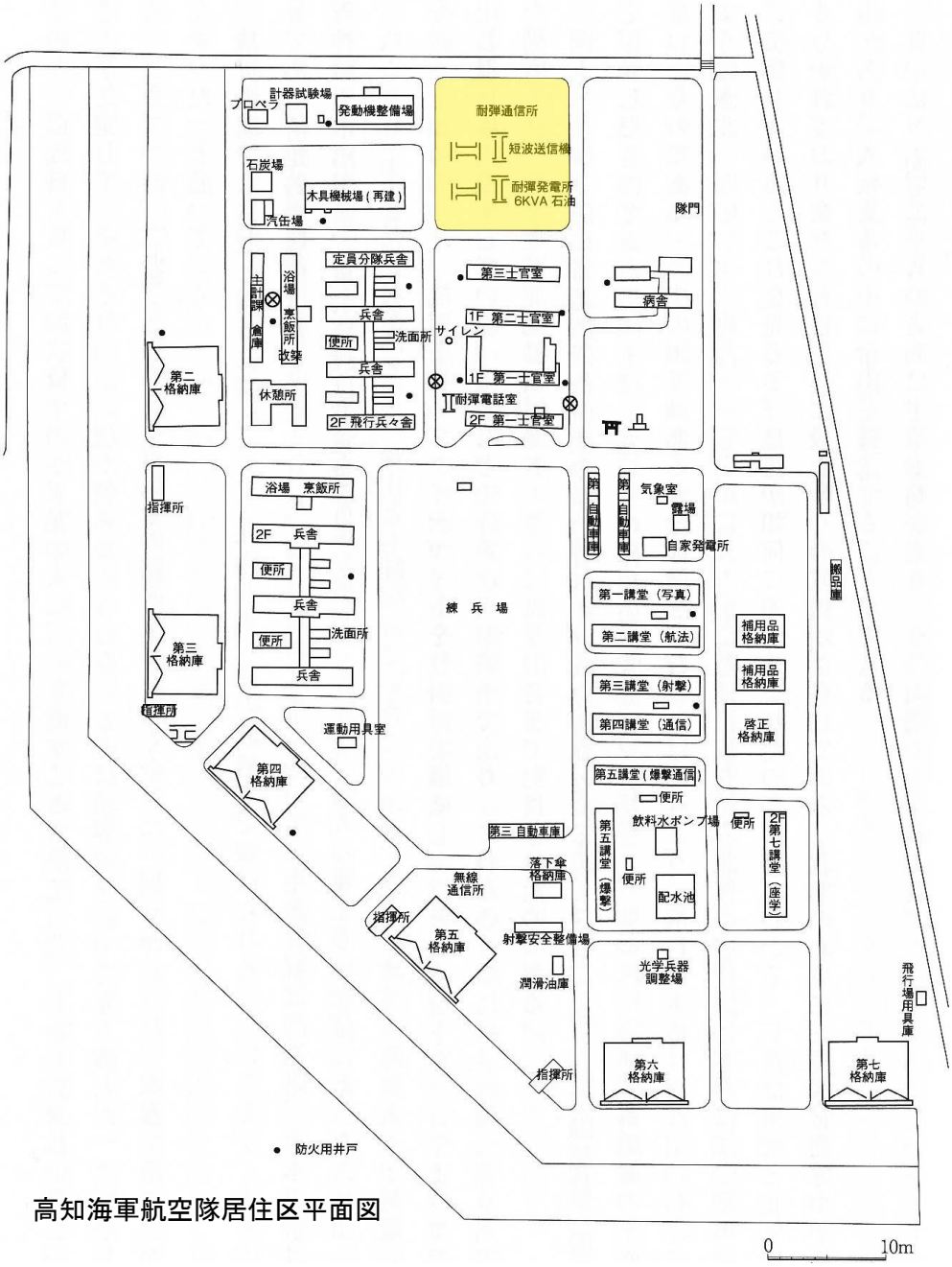
高知海軍航空隊とは

現在の高知空港の前身であり、戦時中の 1941 年 1 月から旧三島村の約 7 割にあたる約 220ha の面積を強制的に接収して飛行場および関連施設を建設しました。

ここでは、士官 160 名、兵員 3,660 名、機上作業練習機「白菊」55 機が配置され、飛行訓練が行われていましたが、戦争末期には神風特攻隊菊水部隊「白菊」隊が編成され、26 機出撃し、52 名が戦死しました。

戦後、滑走路部分は高知空港になりましたが、南の用地と誘導路は農民たちに戻され、田畑の復元に努めました。しかし、頑丈に造られた掩体 7 基は壊されずに残り、現在、市の史跡として平和教材に活かされています。北の兵舎等は高知大学農学部となり、現在も戦時中の遺構がいくつか残されています。その中の 1 つが耐弾通信所跡で、農学部北東隅にある広さ 4500 ㎡の高まりの地下には、4 基が非常に良好な保存状態で残されています。



高知海軍航空隊居住区平面図